

木づかいで森もまちも幸せに ～ 昭和47年7月災害から50年の今、森と山を想う ～

豊田市矢作川研究所 主任研究員

洲崎燈子

愛知県に未曾有の土砂災害・水害をもたらしたいわゆる47災（昭和47年7月豪雨）から今年でちょうど50年となります。この災害の記憶はかなり忘れかけられていますが、これは愛知の豊田市（藤岡・小原地区）だけでなく全国的に猛威をふるった広域災害でもあり、山間地で多くの被害があったことから始めて「警戒避難体制」の重要性が提唱された災害でもあります。あれから50年経った今、山間地の森は果たして健全な状態になっているのでしょうか？

現在矢作川流域圏の山間地で行われている様々な取組み、「森の健康診断」や矢作川流域圏懇談会担い手づくり調査で発掘された先進的な事例などを中心に、改めて山（山間地）や森の問題について考えてみたいと思います。森が健全であることの意義・重要性は都市も無関係ではありません。自分ごととして捉えてみませんか？

洲崎燈子氏 プロフィール

東京都生まれ、早稲田大学 人間科学部を経て同大学院修了後に1998年 豊田市矢作川研究所勤務、現在に至る。専攻は植物生態学・博士（理学）。矢作川流域の植生の現状と成立過程、その望ましい管理手法等の調査・研究に従事している。2005年に始まった市民参加型の人工林調査「森の健康診断」の構築と運営にも携わってきた。2010年に始まった矢作川流域圏懇談会・山部会（蔵治光一郎座長、事務局 豊橋河川事務所）では重要な役割を担い、なくてはならない存在となっている。



【講演内容】

1. 昭和47年7月豪雨災害（1972年）
被害状況
人工林と土砂災害
2. 矢作川流域の森林再生をめざして
（財）矢作川水源基金（1978～）
豊田市水道水源保全基金（1994～）
矢作川 森の健康診断（2005～2014）
3. 矢作川流域圏懇談会（2010～）
山部会の取組
山村、流域圏担い手づくり事例集（2013～）
4. 学童保育施設木造化プロジェクト
森と子ども未来会議について（2017～）
まちと森を繋いだプロジェクトのあらまし



矢作川流域圏懇談会 全体会議 座長：辻本哲郎

昭和47年7月豪雨

愛知県建設局砂防課

1

全国的に大きな被害が発生 (昭和47年7月3日～15日)

- ▶ 7月3日～6日九州から四国にかけて500ミリ～800ミリの降雨があり、大規模ながけ崩れが発生し、熊本県姫戸町（現上天草市）122名、高知県土佐山田町（現香美市）で61名の死者・行方不明者が発生
- ▶ 7日～9日は北日本で大雨となり、青森県と秋田県で河川の氾濫による浸水害が多発
- ▶ 9日～15日にかけて3つの台風からの影響を受けた梅雨前線の活動が活発化し、西日本から関東地方南部にかけて、400ミリ～600ミリ、山間部では多いところで1,000ミリ前後の降雨があった。これにより、中国地方では河川の氾濫による浸水害が多発し、愛知県や岐阜県、神奈川県では山がけ崩れや河川の氾濫により多数の死者が発生
- ▶ 気象庁は「昭和47年7月豪雨」と命名

2

愛知県での被害状況

		愛知県	全国	備考
人的被害	死者・ 行方不明者	68名 全国の15.2%	477名	旧豊田市9名 旧藤岡村22名 旧小原村32名 旧足助町4名 南知多町1名※7/15 の台風6号によるもの
	全壊	271棟 全国の9.1%	2,977棟	
住家被害	半壊	287棟	10,240棟	
	床上浸水	2,075棟	55,537棟	
	床下浸水	12,077棟	276,291棟	
公共土木 施設災害	件数	2,951件	98,800件	H12東海豪雨の 約2.2倍
	被害額	約154億円 全国の7%	約2,200億円	

3

被災状況

豊田市木瀬町付近の荒廃状況



豊田市上川口町の土砂堆積状況
(豊田明智線)



豊田市平畑町のがけ崩れ

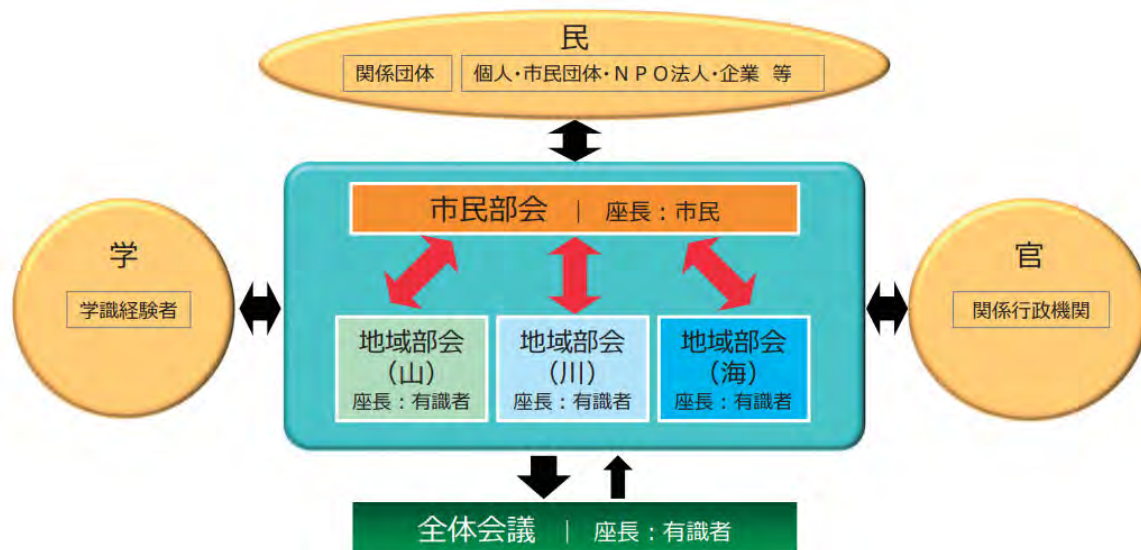


豊田市小原地区にある慰霊碑



4

矢作川流域圏懇談会、流域圏担い手づくり事例集



事例集のミッション

- ① 現場に行き、直接、現場の人たちの苦悩や喜びや課題に触れる → 生の声を引き出す！
- ② その生の声をみんなで共有しよう！
→ 報告集に取りまとめ、矢作川流域圏懇談会のホームページにアップ
- ③ 課題をあぶり出す → 集い、知恵の交換をする

(2013年6月29日開催第9回山部会WG資料より)



学童保育木造化プロジェクト、森と子ども未来会議



学童保育木造化プロジェクト

